

<昭和33年の（都）大小路線>



<出典：参考文献に記載>

堺市役所から大小路を撮影。当時は、高速道路や高層ビルはなく、三階建ての建物からでも遠く堺港あたりまで見渡すことができた。

大正15年に堺都市計画街路として16路線が初めて決定し、市勢の発展に伴い追加変更を行ってきたが、終戦直前に市の中心部が戦災によりほとんど焼失した。

その後、昭和21年に戦災復興都市計画街路として大小路線をはじめ30路線が都市計画決定された。

大小路線は、四方を濠で囲まれた碁盤目状の区割（元和の町割）をなす堺市街地（環濠都市区域）の東西幹線の1つとして位置づけられている。

～街路構造令に特化した各都市の事例～

堺市

おおしろうじせん

（都）大小路線

諸元表

名称	（都）大小路線	経緯	S20年	戦災地復興計画基本方針閣議決定
延長	約1.5km（当初） 約1.5km（現在）		S21年	戦災復興都市計画街路に指定 30路線が都市計画決定
種級	一等大路第2類（当初計画） 第4種2級相当（現在）		S59年	シンボルロード整備事業の事業採択を受け、再整備を開始 歩道の拡幅、電線類地中化（CAB） 大小路歩道橋の架け替えなど
幅員	30m（当初計画）→30m（現在） 全体幅員に対する車道以外の幅員割合 ＞40%（当初計画） →60～65%（現在）		H11年	大小路シンボルロード完成
街路樹	けやき		H29年	堺市市民交流広場（Minaさかい）オープン

平成29年に堺市市民交流広場「Minaさかい」をオープンし、大小路線沿いの市役所前く周辺施設を一体的に広場整備することにより、イベント等多目的に活用できるようになり、大小路線と共に中心市街地の活性化に寄与している。

片側3車線を片側1車線に再整備し、歩道の拡幅、壁面モニュメントや噴水の整備、共同溝による電線の地中化、歩道橋の架け替えなどを実施した。

大小路線は、南海電鉄本線堺駅から南海高野線堺東駅を結ぶ市道であり、堺市の中心市街地を貫く道路である。昭和59年から「活気と潤いと安らぎのある道路空間により、都心地域の魅力あふれる街づくりの先導的な役割を担う」ことを目的に、シンボルロード整備事業による再整備が行われた。



再整備前



再整備後

<現在の（都）大小路線>



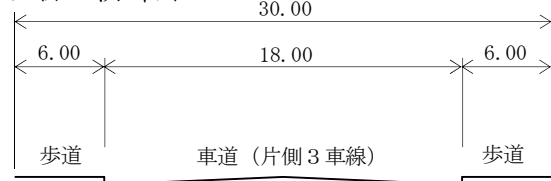
堺市市民交流広場 (Mina さかい)



毎年秋に開催される「堺まつり」で一部区間を通行規制し、火縄銃隊の祝砲や時代衣装など大パレードが行われている。

<出典：堺市「Mina さかいについて（堺市HP）」>

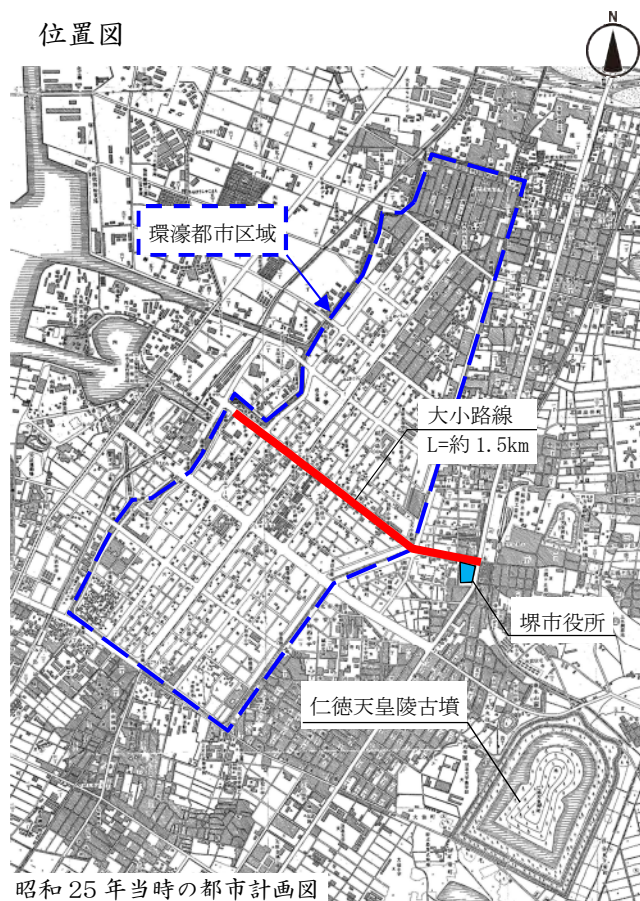
当初の横断面



再整備時の横断面



位置図



昭和25年当時の都市計画図